

「わたしだ」という力強い声

教団代表 内山 勝



「イエスはすぐに彼らに話しかけ、『しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない』と言われた。」

（マタイ一四・27）

昨年10月に行われたホーリネス百周年記念集会のパネル・ディスカッションの席上で、「これから先、私たちは過去の実績や経験が通用しない時代に入っている」と発言した牧師がおられました。確かに、私たちの群れも、未経験で大きな変化を伴う時代に突入していると実感させられています。

先輩たちの真剣かつ信仰的な取り組みによって築き上げられて来た「伝統」は主がくださった恵みであり感謝すべきものですが、時間の経過と共に次第に形骸化して行くことになる、それらは逆に私たちの信仰的前進を妨げる厄介なものへと変わります。

私たちは、最初に、真剣に祈って取り組んで良い結果が得られると、次も同じやり方を踏襲しようとしません。それが安全であり、なお且つ楽だからです。そのようにして次第にルーティン化して行きます。しかし、それがだんだん積み重なって行くうちに、いつの間にか、余り考えることなく集積したデータに基づいて方針を決め、その是非について根本的な問いを発しなくなる傾向はないでしょうか。

神さまは、そのような弱さを持つ私たち、目を覚まさせるような試練をお与えになることがあります。

弟子たちは真夜中のガリラヤ湖上で、突風に悩まされ立ち往生していました。舟中の何人かはこの湖で長年漁をした経験値の高い人たちだったのでありますが、彼らでさえどうすることもできなかったのです。

この手も足も出ない状況の中で、イエスさま自ら、混乱している弟子たちに近づいて来てくださいました。そして、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない。」と声をかけてくださいました。

これが、今、私たちの人生や私たちの教会で起こっていることではないでしょうか。経験値が通用しなくなっても、前の通りにできなくても、じつは何も恐れることはないのです。主は、この機会を通して、もう一度、新鮮に主のみ声を聴くよう促しておられます。ですから、困難は恵みのチャンスでもあるのです。

私たちが今必要としているのは、主ご自身にお会いして、「わたしだ」と仰せられる力強いみ声を聴くことです。そのようにして私たちは、過去の経験に頼るのではなく、主ご自身によって力づけられ、あらゆる境遇に対処する秘訣を学んで行くことができます。

今年も、はや8ヶ月が過ぎました。この間に、地震や集中豪雨、酷暑など、私たちの予測をはるかに超える異例の出来事が続いています。

いろいろな意味で、私たちは、もう一度真剣に、主からの語りかけに耳を傾けようではありませんか。

目次

- 「わたしだ」という力強い声……内山 勝……1
- 謝恩日聖日、東関東聖会、東北聖会……2
- 教団運営委員会、全国ユース・ステーション……3
- 海外トピックス、国内教会局、読書のひろば……4
- 平瀬正行先生追憶、西日本豪雨災害……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

謝恩日聖日を迎えて

羊飼いとて召された先生方をお支えする



厚生委員 齋藤純雄

「兄弟たち、あなたがたにお願いします。あなたがたの間で苦し、主にあってあなたがたを指導し、訓戒している人たちを重んじ、その働きのゆえに、愛をもって、この上ない尊敬を払いなさい。」
 (一テサロニケ五・12、13)
 格別厳しかった夏を乗り越え、9月に入りました。今月の第三主日を中心にインマヌエルの群れでは「謝恩日聖日」を迎えます。この日は、「……わたしの羊を牧しなさい」と主ご自身からその全生涯を伝道・牧会に献げるように召された先生方に、私たち信徒が心いっぱい感謝を表す日です。私の所属する教会では、週報紙上で謝恩日聖日の意義が記載され、礼拝献金から謝恩日献金として、いつもより祝福された額が本部に送られることになっております。

現在56名の引退された先生方を退職支援金をもってお支えしております。毎年その数は増え続けており、その一方で厚生資金の収入は、横ばいもしくは漸減状態にあります。このことを覚え、なお皆様方のお祈りとご支援をいただければと願っております。

また、もし状況が許されるならば、無理のない範囲で、教団の規則や地方教会の現状とのバランスも考慮しつつ、教会独自の厚生規約も検討されてよいのではないのでしょうか。キリストの愛をもって、信徒の総意で主がお立てくださった信徒の先生方に厚い志を表すとき、主はご自身への愛として受け止めてくださいます。そして、それは教会全体の働きの上に豊かな祝福となつて、必ず主ご自身がお報いくださいます。

「愛とは時間を捧げることである」と言われていますが、感謝と祈りをもってささげられる献金は貴重な時間と汗と労苦の結晶で、貴い捧げ物であります。しかし、今年はそれに加えて、「主から召された先生方の貴い働きのゆえに、愛をもって、この上ない尊敬を払いなさい」という主のみことばに、さらに真実にお応えするにはどうあるべきか、各々で考え実践させていただけたら、大変幸いで感謝なことではないでしょうか。

「私にとって、自分の子どもたちが真理のうちに歩んでいることを聞くこと以上の大きな喜びはありません。」(Ⅲヨハネ4)とあるように、主が遣わしてくださっている先生方に、大きな喜び、慰め、励ましをもたらす者とならせていただきたいと思います。

第17回 東関東聖会

小平牧生先生を迎えて主のものとする

木更津教会 宮崎聖輝

第17回東関東聖会が、8月7日から8日にかけて行われました。講師として基督兄弟団の西宮教会牧師、小平牧生先生をお招きし、2回にわたる聖会のメッセージを取り次いで頂きました。総出席者は102名でした。

ここ数年、東関東聖会は市川や船橋付近の会場で行われてきましたが、今年は会場を成田に移し、参加者一同、新鮮な思いで聖会に参加させて頂いたように思います。

講師の小平先生は、教団内外で用いられている主の器で、2日間にわたるメッセージも、ありのままのご自身の証しを交えながら、みことばを分かりやすく説き明かしてくださいました。一日目の夜はヨハネ福音書八章1〜11節から「私たちはもはや罪の中を歩まない」と題して、主の前にありのままに出ることの幸いが語られ、二日目の朝はルカ一九章1〜10節より「私たちは主のものとして生きる」と題して、主の呼びかけに応答



し委ねるとき、主が私たちを変えて下さる幸いが語られました。その他のプログラムも祝され、恵みのうちに今年の聖会を締め括ることができました。

第44回 東北聖会

南北合同の東北聖会でしたきよめと成長

盛岡教会 國光勝美

第44回東北聖会は7月31〜8月3日「いこいの村岩手」(八幡平市)を会場に、講師には朝比奈悦也先生(大阪伝法)をお迎えして開催されました。参加者は80名でした。「きよめと成長」というテーマのもと、「エマオ途上の弟子たちの

変化」を、「開かれた聖書(聖会Ⅰ)」「開かれた心(聖別会)」「開かれた目(聖会Ⅱ)」「開かれた口(派遣集会)」という角度から、きよめのメッセージを取り次いでいただきました(ルカ二四・13〜53)。ユーモアを交えながら実生活に活かす具体的な勧めは、大きな祝福となりました。信徒局・BTC後援会・厚生委員会の働きについての紹介の時も持たれました。

今年の猛暑は東北地方も例外ではありませんでした。肉体的にも財的にも日程的にも容易ではない二泊三日の「聖会」に参加するということは、それ自身が大きな信仰の証し塚のように思います。自分と同じ信仰の兄弟姉妹と、年に一度会って励まし合えるのは聖会の恵みの一つです。



来年の、南北2箇所東北聖会が、これまでの嗣業を受け継いでいきますようにお祈りください。

教団運営委員会から……

多くの課題の中で

主を仰ぐ信仰を

広報 大兼久芳規



7月23日、24日に、今年度三回目の教団運営委員会が開かれ、内山代表より、箴言二章5、6節から「起きる出来事の中で主を仰ぐ」との備えをいただきました。

冒頭に、イムマヌエルの教会を巡る寸借詐欺が起っていることの報告があり、再度、注意喚起がなされています。

国内教会局では、全国の教会の課題と必要に加え、大阪北部地震、西日本豪雨災害への対応と支援について話し合われました。呉教会を開放して8/10までボランティアアセンターの活動がなされました。世界宣教局からは、グローバル・ユース・ミニストリーの新しい働きが順調にスタートしていること、また香港では宣教への制限が加わっていることが報告され、祈りが必要としています。ケニアの葛田就子宣教師が帰国され、関西に居を移しますが、各地で奉仕が許されます。また、2019年夏には、ザンビアへの訪問団の募集が検討されています。特に若い方々

へのご案内いただければ幸いです。厚生部からは、伝道者引退後の退職金、ケアハウスの状況が確認され「教義及び条例」に記載されている退職時給付金についての案内・説明がなされました。

出版事業部では、新刊『こころ』、『新版・信徒の心得』『わが道の光』『みんなのホーリネス』など、今後の出版計画が検討がなされています。

神学院の改修された研修棟は「ベテルハウス」と命名され、8月のYSを皮切りに教団内外で利用され始めています。

会堂委員会からは、名古屋教会が会堂建て替えて、11月から着工、来年4月末に完成の予定。また隣接地を取得することになった深川教会のために祈りをささげました。

BTC後援会からは、教会により70周年記念感謝献金の取扱については様々な対応がありますが、BTCが70周年間守られ500名以上の卒業生を輩出してきたことについて信徒から感謝を表したいという趣旨が改めて説明され、先生方の理解と支援が要請されました。7月末に代表より趣旨を確認する追加説明文が送付されました。年会検討委員会から、次年の第74次年会は、3月5日(火)〜7日(木)に又エックで行い、次の2020年は神学院でファミリー年会を行うことを検討しています。対外的には、アジア福音同盟(AEA)議長の内山勝先生(教団代表)が3回にわたってメッセージを

第6回 全国ユースステーション

Confidence—信頼・自信

8月12日(日)~14日(火)



久留米教会 吉村和記

第6回YS全国大会が開催されました。今回は、とにキャンの日程と重複しましたので二泊三日に短縮しましたが、濃厚で充実した集いになりました。(計93名参加)▼青年たちによる手作りの大会

これまでの教団の「聖会」と「全国YS」の違いは、YSは青年が自分たちで企画運営しているという点にあります。この世で生き悩む彼らが自分たちの問題をテーマにし、講師に交渉し、全プログラムを企画します。今年もその賜物が発揮された素晴らしい大会になりました。

▼テーマに沿ったメッセージ
「Confidence—信頼・自信」というテーマは、信仰生活の中で浮き沈みの多い自分のことを考えた青年たちが、クリスチャンとしての生き方にどれだけ自信を持っているのか、そんな心の内情を表したものです。このテーマを汲んで講師の内山勝先生(教団代表)が3回にわたってメッセージを



語ってくださいました。イザヤ、ペテロ、エリシャと取り上げられた中、特に二日目夜に語られたペテロの挫折からの回復は、多くの青年たちの心に響いたようでした。初日の夜に「自信は上から」と語られたことを受けての二日目、ペテロが招いた人生最大の失敗の原因は何だったのか。それは根拠のない人間的な自信からだった。必ずしも自信に満ちていることが良いことではない。しかし、そのことでつまづく私たちをも丸ごと受けとめ、失敗したあとの回復のプログラムも神様は用意してくださっていると語られました。

周囲を見ずに暴走する時もある、周囲を見過ぎて深く落ち込む時もある、上下運動の激しい青年時代にそのすべてを「ご存じのイエス様と出会い、主にある自信が与えられて、また現場に派遣されていく。今回の全国YSでも各人が豊かに扱われたことは彼らの清々しい笑顔が物語っていました。▼神学院での開催
その恵みがあふれた場所が、今回は神学院だったということにも私は大きな意義があったように思います。完成して出来たてのホヤホヤの匂いにする研修棟で、主の臨在を感じながら気持ちよく3日間を過ごすことができました。大会当日、ギリギリまで懸命に祈りつつ工事に当たってくださった皆様

国内教会局から

教会建設の務めに
それでも「戦い」はある

とにキャン会場から戻って参りました。今年も中高生の皆さん、そしてスタッフの兄弟方、先生方と共に一杯主を賛美し、主に仕える時を持ちました。喜々として山を降りていく方々を思いながら、それぞれの



持ち場立場でこれから信仰の戦いが繰り広げられることを覚え、勝利が与えられることを祈るものです。各人の信仰生活にも戦いはありましようが、それと共に教会の伝道の戦いが収穫の秋、展開される中で若い力が戦力になることを祈っております。近年はテロや新興宗教の暴走などの影響もあり、信仰の世界で「戦い」

に関連する語彙が敬遠される風潮がありますので、注意が要されましようが、信仰の世界、伝道の取り組みには間違いなく戦いの要素があることは否めません。覚悟を決めて、救霊の前線に乗り出して参りましよう。諸教会の戦いに豊かな勝利がありますようにお祈り申し上げます。(エペソ六・10、18) (葛田崇志)

■「イスラエルはユダヤ人国家」国会が62対55で可決
イスラエルの国会(クネセト)は7月19日、同国における民族自決権はユダヤ人のみにあるとする法案を62対55の賛成多数で可決した。クネセトでは激しい議論が交わされ、審議は8時間以上続いた。可決された「ユダヤ人国家」法は、アラビア語を公用語から外したほか、ユダヤ人の入植地開発を国益と位置付けた。また、「不可分で統一された」エルサレムがイスラエルの首都だとしている。アラブ系の国会議員たちは法案を強く批判したが、法案を支持する右派政権のネタニヤフ首相は、法案の可決を「決定的な瞬間」と称賛。法案は「イスラエルはユダヤ人にとって歴史的な母国であり、民族自決権はユダヤ人の独占的権利」だとされている。

イスラエルの総人口約900万人のうち、およそ20%がアラブ系で、法律上は平等な権利が保証されてきているが、二流市民のような扱いを受けているとの訴えが長らく出ている。アラブ系住民の権利を擁護するNGO「アダラ」は、法案が「人種差別的な政策を押し進めることによる、民族的な優位性」



海外トピックス

■イスラム系と和平へフィリピンがミンダナオに自治政府
フィリピンのロドリゴ・ドゥテルテ大統領は7月26日、約50年間で10万人を超える死者を出したミンダナオ島にイスラム自治政府の樹立を認める「バンサモロ基本法」に署名、2022年にも高度な自治権を持つ自治政府が誕生する。大統領は23日の施政方針演説で、憲法を改正して連邦制を実現し、地方分権を進める意欲を示した。自治政府樹立は政府と同国最大のイスラム武装勢力、『モロ・イスラム解放戦線』(MILF)が2014年に結んだ包括和平合意の条件で立法化が待たれていた。同島を拠点に政府と対立してきたフィリピン最大のイスラム武装組織は今後、武装解除を進めると見られる。年内にも住民投票を実施され、2019年1月にも暫定自治政府が発足することが予定されている。(平瀬聡樹)

読書の

ひろば



JHAから推薦図書

ホーリネスを生きる神の民

聖化の説教

(旧約編Ⅰ・Ⅱ、新約編)

出版事業部の扱いです

「ホーリネスを生きる神の民」聖化大会講演集「ホーリネス信仰を教会に受肉する」
フロイド・カニングム著
1,300円

2011年秋に開かれた関東聖化大会でフロイド・カニングム博士が語られた二つの説教(「富める青年」・「われらの栄光である神の御名」と二つの講演(「ホーリネスと女性たち」・「アジア・太平洋地域におけるホーリネス信仰の形成」)が収められています。先生は歴史神学の専門家であると共に、素晴らしいメッセンジャーです。

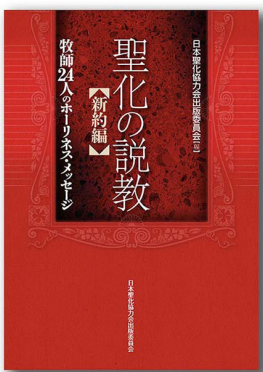
す。どの説教・講演も素晴らしい内容です。個人的なホーリネス経験を重視しつつも、それが教会にどのように受肉していくべきかが明確に語られています。またアジア近隣諸国のホーリネス信仰の形成についてまとめられた講演集は、私たち日本人クリスチャンにとっても大切なことが記されています。

「聖化の説教」全3巻です

(旧約編Ⅰ・Ⅱ、新約編)

旧約編Ⅰ・Ⅱは各1,500円、新約編は1,800円

日本聖化協力会に属する教団・教会の先生方の説教が収められた説教集です。旧約2巻・新約1巻の計3巻からなっています。様々な聖書箇所から、鮮やかな切り口で聖化の恵みが語られます。収められている説教は、それぞれの教会の礼拝で語られたもので、読みやすく、また親しみやすい内容です。現在、3巻セット購入の場合のみ4,800円のところを3,000円で販売しています。詳しくは日本聖化協力会出版委員会までご連絡ください。電話は03(3293)5130です。



追憶

故平瀬正行先生

2018年7月16日(ご召天(享年84歳))



敬愛します平瀬正行先生は7月16日朝、天に召されました。10分前までは会話をしておられ、愛子先生、ご次男ご家族のおられる所で痛みもなく、エリヤのように「凱旋」されました。84歳でした。

告別式の喪主は平瀬愛子先生。家族葬で、教会員他とお別れの時を持ちました。台湾から義樹宣教師ご家族、下関からは聡樹先生ご家族も駆けつけられ、ニューヨーク在住のご長女ご家族はインターネットで、心を一つにして送られました。慰めに満ちた時でした。

正行先生が出身の京都伏見教会90周年集に寄稿されたものを、ご子息方が手直しをされ、葬儀で読まれたものから記します。

「私が救われたのは20歳のときです。祖母に『郷里の阿波から伊藤栄一先生が来られ、特別伝道会がもたれるから』と誘われました。3日目の終わりに、「その人は新しく造られた者です。」(IIコリント五・17)から招かれ、素直に手を挙げました。集会後の個人的な導きで、3つのことを示されました。これらの罪を認めて、口で言います。これで良かったという心

の平安と、教会の交わりに迎えられる喜びが重なって、私の心を満たしました。

受洗後の10年は高校の図書館司書として母校に勤務。30歳のとき、教会付属保育園の保育をしていた福田かをり姉と結婚。翌年に長男・正義が生まれました。その喜びも束の間、生後7日目に日本脳炎にかかり、重症心身障害児施設に移り住みましたが、わずか1週間目に、母親の腕の中で天に召されました。そのことがきっかけとなり、口語訳聖書イザヤ四二章6、7節のおことばが心に響き、西日本聖会で献身を表明。家族を連れて聖宣神学院に入学しました。」

卒業後、高松、京都伏見、新潟教会で伝道・牧会に携わり、新潟でかをり牧師を天に送りました。その3年後に愛子牧師と再婚して下関教会に。引退するまで、44年間牧師をされ、ご次男ご家族宅に移り、富士見台教会員となられ礼拝出席を喜びとしておられます。愛子先生のご健康が支えられますようにお祈りください。正行先生は、「さらなる献身者が家族から興されるように」それが願いでした(IIテモテ四章7、8節)。

2018年後期開講 eラーニング

福音に生きる教会の讚美



eラーニング担当 大津博子

豊かな礼拝のために「福音に生きる教会の讚美」と題して、中山信児牧師(JECA菅生キリスト教会)をお迎えいたします。『教会福音讚美歌』の編集に携わり、賛美歌の翻訳や新しい日本語の賛美歌制作も手がけた先生が深く豊かな学びを展開してくださいませ。今回の講座は、教育局がバックアップしてくださり、牧師、神学生、信徒伝道者には補助が適応されますし、奏楽者はもちろん、一般の信徒の方々もぜひ受講していただきたいと思えます。

講義は讚美歌概論から始まり、世界、日本の讚美歌集の流れなどの歴史、日本語讚美歌や教会福音賛美歌についてなど。見識の豊かな先生によるお楽しみ付録講義も毎回つき、盛りだくさん！アドベント前と後に讚美を学べることは本当に感謝です。

11月8日開講、前期後期各4週(アドベント期間は休講)、計8週。お申し込みは9月10日よりHPのお申し込みフォームから<http://www.grace-online.jp>。

西日本豪雨災害に際して 呉教会に支援センター開設

地域教会の一致と協力 完全復旧まで数年

呉教会 内山忠信

できたこと。③被災した安芸津(あきつ)教会の再建が進められたこと、青年たちの真実な作業のゆえに、今では内装工事です。教会前の復旧工事は数年かかる見込み。④教会の関係者宅で作業が行われ、家の方の話や聞き、祝福を祈ることが行われ続けました。その結果、心が開かれ笑顔となられたこと。

8月10日で、宿泊を伴う活動は終了しました。今後は週2日、火曜、金曜を作業日とし、これまで関わった案件の完結に取組みます。多くの必要も、呉ボランティア・センターやJECAへの皆さまの献金により満たされつつあります。献金された皆さまの上に、主のお報いをお祈りしています。

これからも、あと2年の予定で、様々な取組みが進められます。被災された方々に寄り添い、何とかして福音を届けたく祈っています。続いて、お祈り、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。詳細は、<https://www.facebook.com/hksaigai/> をご覧ください。



7月の西日本豪雨で、呉は土砂災害が相次ぎ、周辺市町とつながる主要道路の大半やJR呉線などが寸断され、7日から孤立状態となりました。9万世帯が断水となり、食料の供給は止まり、不衛生な生活が続きました。そうした中で、広島宣教協力会広島災害対策室より、当教会にボランティア・センター本部開設の依頼があり、役員会は了承しました。宿泊場所として、呉牧師会の四教会と呉ハレルヤ会の協力を得て、ボランティア・センターを開設。今回の活動は、①教会の必要、②教会の関係者の必要、③教会の置かれた地域の必要、これらに配慮することを目的としました。

7月17日、8月10日と期間を限定し、呉牧師会、広島宣教協力会をはじめ、国内外約千名のクリスト者の協力を頂きました。

今回、感謝だったことは、①短期間で開設できたこと。②主にあって一致し、教派に関係なく、共に祈り、共に主に仕えることが

巻頭言

私たちはキリストの香り



世界宣教局長
梅田 登志枝

「私たちは救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神に献げられた芳しいキリストの香りなのです。」(コリント人への手紙 第二 二章15節)

この個所で、パウロはコリント



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

教会の人々に自分の使徒職の正当性を語っています。これはまた主イエス様の召しに従い、福音宣教に携わる立場にあるすべての人に求められる規範でもありましょう。パウロは沿道に香が焚かれる中、ローマ軍の凱旋行軍が勝利のしるしとして歩かせる捕虜と、キリストの愛に捕虜のように捕らえられた自分とを重ねました。罪の異臭、悪臭を放っていた私たちを、主イエス様は愛し赦して、ご自身の十字架の犠牲の香りで覆い包みこんでくださいました。パウロは福音宣教とは、召されたものが、神様によってこのキリストの香りを放つことである、と語っているのです。さらに、神様への徹底的な献身によって、私たち自身も生きた供え物としての香りをキリストを

通して放つようにと勤めています。

* 厳肅な香り (14節)

キリストの香りとなって私たちが伝える福音は、人々の生死を決定するほどの厳肅なものです。そのような重い務めを果たす力は私たちにはありません。まず福音宣教に携わる者たちが、神様の前に打ち砕かれてすべてを明け渡しているかを問われます。その福音理解、十字架経験に、今日も生きることなしにはキリストの香りを放つことはできないでしょう。パウロは更に証しを込めて励まします。

* 神様のみ言葉の香り (17節)

福音宣教で伝えられるべきは純粋な神様のお言葉です。私利私欲や語る者の意図によって水増しされても、差し引かれてもなりません。み言葉を端や斜めや裏から読み込み過ぎたり、想像力を働かせる余り、み言葉の真意とはかけ離れてしまう危険もあることでしょう。神様から派遣された者として、誠実にみ言葉を伝えたいものです。その時、私たちは人々を命に至らせる、キリストの香りとしての使命を果たすことができるのではないのでしょうか。

* 神様の御前での香り (17節)

地上で、そして天に帰るその日まで、神様の御前に主イエス様とともに歩みながら、その香りを放つことができたならなんと幸いなことでしょうか。福音宣教がどの

ような困難な時代にも、日本と世界の各地で、キリストの香りを放ち続ける人々によって広がります。ますますよき心から祈るものです。



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2018年8月6日

今月も23回の車の外出がありました。その間に車のブレーキの不具合で部品を買いに首都まで出た。タイヤが破裂したり、車のトランク部分のカバーの鍵が壊れているので鍵を付け替えようとしたら、鍵だけはなく全部換えないとダメだそうで、とても高価なところであると言われました。別なところでもできると言われ約十分の一の値段でもらったのです(すぐ直せると言われたのが1日半もかかった)、なんともお粗末で3日目には壊れてしまう状態でした。こういうのは結構ストレスになります。タイヤの破裂は初めてでした。イメージではパインと破裂して大事故になることのように思っていました。大事故にならず(パタパタパタと音がして、

見るとバーストしているという状態)感謝でした。背後にあるお祈りに支えられて守られてお祈りすること感謝です。パワーステアリングのオイル漏れ、この部品がこれまた高価で驚きましたが、トヨタの会社にもなく、中古部品を見つけてくださり、4分の1の値段で買うことができ、感謝でした。今までに経験したことのないタイヤの空気漏れもみつきり、今月は車との関わる1か月でした。今は壊れたトランクの鍵を何とか直そうと頑張っています。鍵自体は壊れていないので(新しく取り付けてくれたもの)何とかしつかり止めることができるように自分でシリコン接着剤をきれいに剥がすところからしています。きちんとつけられるといいのですが、この事もお祈りください。さて建築についてですが、いまは工程が着実に進みつつあります。これまでのザンビアの生活の中で大変寒い生活を強いられることが何度もありました。ですから、そのことも踏まえ2つの家に暖炉を付ける予定となっております。1か月遅れの9月にはすべての工程が完了する手はずとなっております。本当に最後の最後まで無事作業行程が進んで参りますようお願いください。ここ2、3日は比較的寒さが和らいでいます。クリニックでは薬のパッケージを作る程度の仕事しかできません。背後にあるお祈りに支えられていることを感謝いたします。■



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2018年8月3日

7月は寒さが続く中でしたが、月の後半には暖かくなる日もあり、気候は徐々に夏に向かっていくようです。クリニックでは長期休暇であったスタッフが戻ってきました。仕事内容が減るかと思われましたが、さほど変わらない働きが続きました。月の前半には、とても稀にある先天性異常児のケースがありました。お産は順調に進み、誕生後も声をあげて泣くことができませんでした。手術が必要ないケースで、通常搬送する病院では対応できず、首都の病院へと搬送されました。手術をしても助かる命は50%ということで、ただこの母子を御手にゆだね、送り出しました。その後のフィードバックがないため、現在の状態はわかりませんが、生まれた新しい命が神様の御手の中にあることをただ祈っています。この特別なケースは超音波検査をしない限り発見できなかったケースで、このことを通して改めて、田舎のジェンボ・クリ

ニックでの限られたケアしか提供できないことを思わされました。そのような中でも、この新生児の命が守られ搬送ができたことは感謝でした。先月から働き始めた新人看護師のメンターというわけではありませんが、お産を教える機会を与えられています。ザンビアでは医療スタッフ不足であるため、看護師もお産介助をできるように看護学校の実習にも分娩介助の科目が含まれています。彼女も実習では介助経験がありますが、一人での分娩介助は未経験であるため、彼女と共にお産介助をしています。また、他のスタッフには幾つかの医療処置を教える機会がありました。その医療処置を行えるスタッフが突然、転勤になり、その処置を行えるのがクリニックで私だけという状態になりました。急遽、あるスタッフに私が教えることになりました。感謝なことにはその処置が必要な患者が続いて起こされ、実習する機会が何度か与えられ、彼女の技術の取得に大きな助けとなりました。6月に使用していたアイフォンが壊れ、その修理に色々ためしてみましたが、全て失敗に終わりました。その間、違う電話で対応していましたが、田舎でのインターネット使用には問題があり、ネットによるコミュニケーションをとるのが不便な時がしばしばありました。現在はこの田舎でどのような方法が最善でインターネットを使用できるのか、試行錯誤中です。■



KENYA

ケニア・テヌウェク

蔦田就子*2018年8月6日

巡回前に礼拝や祈禱会に加えて頂いた諸教会で、多くの方々から「火事のその後はどうですか?」「スタッフは補充されましたか?」と声をかけて頂きました。具体的ななお祈りありがとうございます。まだケニアにいる時に、火事後、何か物資を送ろうと思っていたのですが、とのお問い合わせをいただきました。今回は点在する建物の一つだけが被害を受けたことを考えながら、早速手術室の主任と相談しました。もしボイラー室に引火などしていれば、大爆発を起こして、病院近辺に在住しているスタッフや宣教師も被災したことでしょう。しかし、今回そのような被害はありませんでした。また、小包は、発送してから到着するまで、船便なら最低3か月、最長6か月から1年以上かかります。航空便は普通1週間位で届きますが、送料がかかります。更には、航空便であっても、何らかの事情で数か月

かかることもあります。そのようなわけで、常時必要かつ常時大歓迎の包帯や病理検査用の空容器等とは違い、今回のように火事後の必要のために、という指定内容だった場合、着いた頃には必要のタイミングがずれてしまっていることが大いにあり得ます。火事の時、多くの非番のスタッフやスタッフではない近所の方々も消火や患者さんの避難の介助に加わってくださいました。一方で、野次馬や火事場泥棒もありました。その影響で、手術の時に滅菌して上にかける布(ドレープ)やガウンの不足がありました。ドレープやガウンの数に余裕があれば、次々に手術ができません。しかし数が足りないため、今使ったドレープやガウンが次に使えるようになるまで、消毒して洗濯して乾燥して畳んで包んで滅菌して乾燥してという過程に数時間かかる影響で、真つ昼間であつても、人手や医療材料などの条件がすべてそろっていても、手術ができない、という変な「間」ができてしまいます。そこから感情的なトラブルも発生したりしていました。もともとスタッフ一人ひとりが火事のことでも何らかの影響を受けている精神状態だからなのか、余計に過敏になっている部分もあるでしょう。以上を踏まえて、物資を送ってくださるとの志に感謝しつつも、「不足しているガウン購入用の献金に変更は可能でしょ

うか」と打診しました。現状の改善によって、患者さんの不便だけでなく、スタッフの精神的なストレスを軽減することも期待できると説明しました。感謝することに快諾されて、「これから準備に入ります」との返信を頂きました。帰国後間もなく世界宣教局を通して献金を受領しました。しかし、テヌウェク側への送金先の情報の取得や日本からの送金手続き、また入金の確認と用途の確認の全てが終わるまで、意外と時間がかかってしまいました。最近、ようやく、お預かりした献金で、300着のディスプレイザブルガウンを購入できたことを確認でき感謝です。一つの手術には、3着から5着以上のガウンが必要です。集中して使ったら一週間分の量ですが、今回は再利用可能なガウンの在庫が切れてから次が準備できるまでの「つなぎ」として使うので、実際はもっと長期間のサポートがこの量でなされることを期待できます。また、各手術の回転がスムーズになり、より多くの患者さんが手術を受けられるだけではなく、ゴタゴタが減ることによるスタッフへの精神的な利点は計り知れません。また別の教会からは「先日包帯と病理検査用の空容器を発送しました」という嬉しいメールを頂戴致しました。必要に具体的に届いて下さる皆様のお祈りとサポートに今回の件からも感謝いたします。■



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2018年8月7日

北中央パンガシナン教区の記念集會に招かれ、出席しました。ウエスレアン教区は教会数が20になる...

つか見つかり、学生に応急処置をしてもらいました。恭子が聖書大学の先生たちと一緒に宣教旅行に出かけた...

出してみると、ラバヨグ教会を最後に訪問したのは、もう6年も前のことで、子どもたちは全く覚えていませんでした。



- 会計報告7月分
宣教献金 四、八一三、〇〇六円
月平均 二、二四五、五一〇円
お祈りの課題
フィリピン(豊田)
◆新学年度が始まった学生たちが...

- ◆建設中の3つの建物が無事、完成し、1月中に引っ越せるように。
◆テス夫人の現在の仕事場が主の御心の場所に導かれ、ヴァンデイ師が伝道活動に専念できますように。
ケニア(豊田就子)
◆デイスボーザブル・ガウンの必要が与えられた感謝
◆巡回の奉仕が祝されるように...



聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

事後処理

院長 ● 河村 従彦

「イスラエル人の中で彼より美しい者はいなかった」
(第一サムエル九・2)

なぜサウルだったのか。サウルの人生って何だったのか。旧約聖書の歴史はいわばダビデ王朝記で、ヘブル人の視線は初代の王サウルにまで遡ることはありません。マタイの福音書の系図にもサウルは登場しません。いわゆる傍系です。イスラエルが王政に移行した流れは微妙で、そもそも王政は神さまのみこころではありませんでした。神さまは「それほど言うのなら」と、民の思いを尊重され、そ

してサウルが選ばれました。サウルからダビデへの移行は絶妙でした。ダビデの油注ぎの意味は本人にも父親にも知らされず、おそらくその意味を知っていたのはサムエルと神さまだけです。神さまは「知らない恵み」の中で、静かに体制移行をされました。

人間は間違った選択をするものです。それにもかかわらずわたしたちがきょうの目を生きているのは、神さまの事後処理があるからです。神さまは間違った人間の選択を引き受け、それを恵みの機会に変えてくださる方です。献身を決意した頃、振り返ると

信仰も使命感もなく、恵みを知ったのは数年後のことです。自分は神学院に行くべき、これだけでした。なんでそのように思ってしまったのか、危ない橋だったような感じもしますし、急ブレーキをかけてUターンするやり方は、自分のことしか頭にない未熟者でした。申し訳なかったという思いしかありません。「わたしが事後処理をする」、神さまのその恵みが必要ならば難しかったと思います。人生の区切りにはリスクが伴います。特に献身は、それまでの人生を精算することを含みますからとても危ないのです。自分ではどうしようもないこともあります。神さまの事後処理がなければ本当はできないことなのかもしれません。決断は小さなことではありませんが、究極的には全部が恵みです。ありがたいことです。



研修棟バテルハウス一階ホール(旧食堂です)

神学エッセー 預言書を読む ① その時代の人々に



林 正弘

以前、「小預言書と説教」というテーマでeラーニングの講座を担当しました。神学院でも小預言書のクラスで共に学ぶ機会が与えられています。

聖書の中で預言書は重要な位置を占めています。「律法と預言者たちの書」は、旧約聖書全体を指すものとして新約聖書で使われています。「よげん」といえば、一般的には「予言」という文字が先に出てくるかもしれませんが、聖書では「預言」です。預言書の中には将来のことを予言した部分もあります。新約聖書において成就する主イエスについての予言があり、また終末についての予言もあります。そしてそれらが渾然一体となつて一枚の絵のように描かれていることもあります。しかし、預言書は基本的に、預言者が神からのメッセージを預かってそれぞれ時代の人々に語ったものです。預言書には、しばしば「主はこう言われる」(第三版では「主はこう仰せられる」)、あるいは「主

のことは——」(同「主の御告げ——」)と、主ご自身のことばが記されています。主のことばそのものですから、私たちがそのままストレートに受けとめることができるわかりやすいメッセージだと思われるかもしれません。確かに、「わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——主のことば——。それはわざわざいではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」(エレミヤ二九・11)や、「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によつて」と万軍の主は言われる。「ゼカリヤ四・6」など、私たちの心に響く有名なことばも少なくありません。それでも私たちは、預言書は、預言者がその時代の人々に語ったものであることを忘れてはなりません。

したがって、預言書を理解する上で重要なのは、その時代背景を知る、ということなのです。どう捉えているのかわからないような書はもちろんのこと、先に挙げたようなわかりやすい(と思われる)有名なことばも、預言者によって語られたときの状況を知ることによって、よりよく理解することができます。時代を特定することができます。時代を特定することが、むしろかきい預言書でもあります。それでも背景を知ろうとする意識が大切です。その「時代」という舞台において、必要があつて預言者は召され、神のことばを預かり、それを語っているからです。

◆前期の学びを終えて

主のくびきは負いやすい

李仙英(ソフィ) 訳・中尾敬一

BTCで、神様から、また学院の皆さんから多くの恵みをいただいています。今日までの神様の素晴らしい導きと教えに感謝してもしきれません。

昼食の交わりやピアノレッスン、料理指導を通して、単に神学生の妻としてではなく、学院の一員として受け入れられていると感じました。何もしていないのに、これほどいただいて良いのだろうかと思っただけです。学院生活を通して喜んで受け取ることは謙遜な姿勢でもありと教えられています。

チャペルでは、藤井神学生が説教を丁寧に同時通訳してくださいます。恵みを豊かに受け取れるように、また心の欠けが癒やされるようにと、小さな者のために、神様が完全な用意をしてくださっています。神様はきめ細やかな気配りをしてくださるお方ですね。また、チャペルの説教によって魂が醒まされました。「世の基準で『より良く』なろうとしなくて良い。あなたのそのままの弱さを通して、御自身を表してくださいます。あなたらしくあることが、

神様の力と祝福を示す道です。神様が愛であることを人々が見るからです。私たちの行動や姿勢によって証明されるかどうかに関わらず、神様の素晴らしさは明らかです」というメッセージでした。私の思いは正しい道に戻され、役立たずと感じていた自己イメージが回復されました。私は律法主義から自由になりました。

私は人生を通して神様への感謝を表したいと思って献身しました。それは間違いではないと思います。私が、私自身が人生の主人になっていたと気付きました。献身もまた神様からの恵みだと考えるようになりまし。神様から主の働きの同労者となるように招かれていきます。何という祝福、何と光栄なことでしょう！

◆前期の学びを終えて

やっと気づいた遅咲きオヤジ?

正規生 竹内俊之

「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる」(詩篇三七篇5節)

今期初めに掲げた聖句を胸に「学び、気付いた恵み」と後期に向けた思い！をトロリと吐露します。前期は、初めて伺う教会での実習。まずは、馴染み生かされる

こと。シャイなロンリーボーイの私は教会の皆様を知って頂くため「ユカイなとしちん!」のまま、お証しや教会学校のお話し担当をさせて頂きました。2年連続骨折を説教例話に生かしたり、イエス様やみことばに親しんでいたために動画・スマホを活用してまで関心を引こう!としました。しかし、本当は奇を衒わず、聖書本文から正統派のみことばを語りたい! しかし、数回の聖日説教の評価は自己評価も含めて、まだまだです。そのための訓練の正念場がここ暫くで最大の課題です。しかし一方で、今期は私の信仰生活で一番の「恵み」の時でありました。贖い主の死、復活と再臨。そして新しい命。わかるけど、繋がらない信仰解釈。観念的で難解な宗教用語の羅列であった神学は、実は「今も生きている



研修棟ベテルハウス宿泊室

イエスさまストーリー」であると気付けました。そんな私に「おい! これだから初穂(クリスチャン)一世のことだそうです」のオヤジ献身者は困るぜ!」とは言わない学び舎。最初は怖れと実社会との乖離しか目に入らなかつた神学生生活。「聖」の概念にある、全ての被造物から区別・分離しているという概念。神学院の森の中で、みことばと聖書にとつぷり浸かつて見えてきた景色は温か。且つ恵み豊かで、牧者の発芽成長期の私に、この西八朔の森は主の信仰の胎内みたいに温かで安心でフワフワ夢想が膨らむのです。

◆前期の学びを終えて

聞くことによる気づき

正規生 峯尾仰生

「信仰は聞くことから始まりです。」(ローマ一〇・17)

今年夏は夏期実習先として東風平教会と静岡教会に受け入れていただき、常駐牧師不在という初めての環境で日々過ごす中で、私の未熟さを痛感すると共に、多くの気づきが与えられ感謝しております。教会活動を支える信徒間の絶妙な協力体制と自発的な奉仕の姿、牧師と信徒の強い信頼関係。常駐牧師不在という現実の中で、共に

支え合う体制と教会を支える信仰、温かい奉仕を拝見する時に、教会の尊さと神様の臨在を実感し、実践的に教会理解が深められております。実習中、交わりの中で証しを聞かせていただく時、そこには感動があります。また証しの内容が様々な方面に広がり、新たな視点が与えられます。信仰、家族、仕事、歴史、本、趣味などへの広がり。一つひとつの生きた言葉の中にその方の強い思いを感じると同時に、神様と共に歩む人生の深い恵みが直に伝わってきました。また証しで教会・教団の歴史に触れる時、過去に多くの犠牲と奉仕があったからこそ、今私がこの教団に、この教会にすることが許されているのだと強い感謝を覚えました。

現在、私は自分の体験や福音理解を整理して言語化する難しさを痛感しています。しかし、その現状に諦めることなく、みことばと証しを聞かせていただく中で気づきを通して、私は心の底で何を思い、福音をどのように捉えているのかと考え、整理し続けていきたいと思ひます。私一人の視野や考えでは気づきが少なく、すぐ行き詰まります。そのため、神様との一対一の時間を大切にすると共に、証しを聞かせていただく中で新たな視点をいただき、より深く恵みを体験し、共に分かち合う者へと変えていただきたいと思います。

私の神学生時代 試練に耐える信仰 12期生●渡辺宣子



「わたしはあなたとともにおり、川を渡る時も、あなたは押し流されない。火の中を歩いて、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。」(イザヤ四三・2)

主イエス様の聖名を賛美します。神学院時代の思い出を記させて頂きますことを感謝します。

私が12期生として神学院に入学した当時は、先に天に召されましたが、葛田二雄先生、岩城幸策先生、葛田眞実先生……方が心血を注いで教鞭を執ってくださり、また、毎週月曜日夜には半徹夜の合同祈祷会、それに朝夕の寮別祈祷会で信仰のお養いを受けました。女子の同級生の方々は、学歴があったり、立派な職歴を持った方々でしたが、私はといえば何の取柄もない最年少の者でした。

神学院で受けた御訓練の一番大切な事は、卒業後いろいろな体験した霊も肉も打ち碎かれる様な厳しい試練に耐える信仰の力を教えてくださった事でした。

まず、卒業後、初めて遭わされたものの何も分からぬ至らぬ者だったので、毎日のように「あなたは駄目だ。」(ヘルパーになれない)「あなたは救われていない。」「きよめられていない。」「伝道者として召されていない。」等と言われ、本当にどうしてよいか悶々と苦しみました。それで自転車に乗って少し行くと大井川が流れていたの、早朝その広い河原に行って何日も祈り続けました。ある日祈っていると「ワァー」という声と共に、私の目の前に日本手拭が飛び込んできて私の首を絞めようとしたのです。「ハッ」として後ろを向くと若い職人風の男性でした。私は「イエス様！イエス様助けて下さい。」と必死に叫びながら転がる様にして遠くで朝野球をしている方へ命からがら逃げました。

この様な火の様な、水の様な試練を乗り越えることができたのは神学院での尊い実践を見越した学びと諸先生方、皆々様のお祈りのお陰だと思います。

この様に伝道者として不適格、不合格な者に神様は「あなたの道を主に委ねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げて下さる。主はあなたの義を光のように、あなたの審きを真昼のように輝かせる。」詩篇三七・5、6の聖言を与えて下さり、これが私の生涯を支える聖言となりました。

その後、主人(渡辺昇)との結婚に導かれ、三本木教会(現・十和田教会)に26年、札幌教会に28年守られてきました。神学院で基礎を築いて頂いたと心から感謝しています。

同窓生の近況

41期生
福岡教会●國重潔志



主の恵みと皆さまのお祈りに支えられ、御奉仕の道をここまで歩むことが許され感謝しております。

学院を卒業後、しばらく留学し主に組織神学を学んでおりました。前半は保守的な神学校でしたが後半はリベラル色の強い学校でした。ユニテリアンの哲学者から自然主義神学やヒンズー教、ユングなどを学び、またフェミニズム神学の組織神学者から神学の方法論について学ぶことを通して、またカトリックや東方正教会のクリスチャンや教授らとの交わりを通して、自らの神学や信仰を問い直させられ、かなり考え方が変わりました。そうしたことから、帰国時には、自らの神学的・信仰的立ち位置は、教団内ではかなり異端的なものになっているのではと覚悟していました。

帰国して約10年ほど経つなかでどちらかという自分分は教団内では保守的な方であるように思われることが多く、これは一体どういうことかと苦笑しています。それだけ主の憐れみが深く注がれたのでしょうか(ローマ五・20)。

神学院スタッフ…恵みの想起

図書・資料の整理③

図書館 三森春生

図書館が受入れた図書・資料は分類する前に登録番号を付け、以前には帳簿でしたが、今はコンピュータで主要項目を記録します。

前述の分類番号などは、情報内容が同じなら同じ番号をつけますが、個々の資料の所在等は個別に扱われるため登録番号で見分けがつかず、貸出・返却・紛失・廃棄などの処置にはこれが必要なので、バーコードに変えて図書に装着します。BTCの図書以外の資料については未着手で今後の課題です。

その他の資料のうち視聴覚資料は近年、録音・録画メディア(磁気テープから電子媒体、ディスク・ティップなど)の急激な変化への対応が追いつけない現状です。トラクト・リフレットなどもまだ手付かずのままです。

学苑だより

- 夏期実習は後期に入りました。静かなキャンパスにYSの青年たちをお迎えし、にぎやかな3日間になりました。
- YS全国大会の2日目に、代表の司式で研修棟の献別式を執り行うことが許されました。
- 研修棟は、教団の会合、教会のキャンプ、霊修会、アラムナイ関連団体にもお使いいただけます。
- 教区主事会議や教団運営委員会も予定されています。また、外部の学生団体からも使用の希望が寄せられています。
- 後援会の創立70周年記念感謝献金は、それぞれ感謝を表したく、可能な範囲でお加わりください。
- 営繕ボランティアのご奉仕にお加わりいただける方がありましたら徳竹先生にご連絡ください。
- 後援会では引き続き世話人のご推薦をお願いしています。



サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。7月の会計報告をさせていただきます。

7月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥982,445
教会団体による「神学院献金」
¥685,785
合計 ¥1,668,230
その他の献金(一時・特別)
¥380,311

振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「主の前で激しい大風が山々を裂き、岩々を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風の後に地震が起こったが、地震の中にも主はおられなかった。地震の後に火があったが、火の中にも主はおられなかった。しかし火の後に、かすかな細い声があった。」

（I列王記一九・11～12）
今夏は酷暑と台風、ゲリラ豪雨と想定外の天候が続く夏となりました。そのような中で、私たちの歩みも不安に陥りがちですが、改めてそのような時にこそ、その先にある主のかすかな細い声を聞くお互いとさせていただきましょう。昨月も各地域での聖会やユース・ステーション、中高生とにキャンなど、教区・教団のプログラムは無事開催され、恵みのうちに終えられたことは感謝でした。今月も各地の聖会が開催されます。この間の各教会での営みも合わせて、各教会に内外の結実を祈り合います。本 部

（会議）
10日(月)～11日(火)
教団運営委員会(人事委員会)
(教団謝恩日聖日)
9月16日(日)は教団の謝恩日聖日として定められています。この日を覚え、感謝献金の実施及び

厚生資金献金のアピール、厚生委員会の働きの祝福の祈りをお願いいたします。

《西日本豪雨災害支援》
支援献金は引き続きJEAを軸に、現地の支援団体に直接お送りください。

△JEA《郵便振替》00190-5-7790 口座名「JEA」日本福音同盟援助協力委員会
▽呉 ゆうちよ銀行 口座名「キリスト教会・広島災害対策室」記号15130 番号57409071(他銀行から送金の場合は 五一八店・普通5740907)

▽岡山(岡山キリスト災害支援室) Ⅱ岡キ災)《郵便振替》01340-5-107209(他銀行より送金の場合は一三九店・当座0107209) 口座名「岡山県宣教の集い岡山キリスト災害支援室」

▽愛媛(四国キリスト災害支援会) 愛媛銀行・桑原支店 普通口座 4131031 名義「四国キリスト災害支援会事務局 安井光」

■国内教会局
〈9月に行われる聖会 開催日順〉
◇中京聖会
16日(日)～17日(月)
講師・藤本満師
会場・小牧勤労センター

◇関西聖会
16日(日)～17日(月)
講師・鎌野善三師(日本イエスキリスト教団西舞鶴教会)
会場・シーバル須磨
◇九州青年大会
16日(日)～17日(月)

◇北関東聖会
23日(日)～24日(月)
講師・小坂嘉嗣師(日本宣教会狭山キリスト教会)
会場・日光オーリーブの里

◇中国聖会
24日(月)
(松江) 松江教会
講師・川嶋直行師
(山口) 山口教会

講師・朝比奈悦也師
〈9月に行われる教区会〉
3日(月) 東京
10日(月)～11日(火) 南九州
18日(火) 神奈川
24日(月)～25日(火) 北関東
25日(火) 東関東・静岡・北越(役員研修会)

24日(月) 南九州教区
《JH A関係》
17日(月) 宮城聖化大会
講師・島隆三師
会場・日基仙台青葉荘教会

24日(月) 山形聖化大会
講師・
会場・ウエスレアンホーリネス教団山形南部教会
《JEA関係》
24日(月)～25日(火)
JEA宣教フォーラム@東海

■世界宣教局
《会議》
25日(火)
世界宣教局運営委員会・局員会
△局へのご意見、ご要望など、梅田登志枝局長までお寄せください。
(toshieumeda2006@yahoo.co.jp)

《IWF関係》
▽今年も宣教師たちはユース・ステーション、とにキャンなど、夏のプログラムに参加して協力くださいました。

《SIBS関係》
▽國重潔志師は南インドのSIBS理事会出席の責任を果たし、無事に帰国しました。

■教育局
▽第4回若手牧師研修会
3日(月)～4日(火)
《YS・とにキャン関係》
この夏は第6回全国ユース・ステーション(於・聖宣神学院)と第11回中高生とにキャン(於・聖山高原キャンプ場)が開催され、恵みの時となりました。中高生・青年たちの信仰の確立と成長のために、引き続きお祈りしましょう。多くのお祈りとご奉仕、ゆえに御名を崇めます。

《信徒伝道者養成関連》
25日(火) 信徒伝道者運営委員会
25日(火)～26日(水) 信徒伝道者養成課程スクーリング
■聖宣神学院
▽夏期実習後期の任地は以下の通りです(順不同・敬称略)。9月24日(月)が帰院日。引き続きお祈りください。

竹内俊之(豊田)
峯尾仰生(静岡)
中尾敬一(東風平)
秋田郁美(中目黒)
▽神学院祈り会は9月4日(火)午後6時。奨励は内山勝先生です。
▽オープン・キャンパスのご案内

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣
発行人 東京都千代田区神田駿河台一〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部

10月19日(金)午後から20日(土)昼まで。体験授業は林正弘先生、院長が担当。教会申込締切は9月16日(日)です。

▽オープン・キャンパス2「BTCリトリート」ご案内
12月27日(木)夜から29日(土)午前まで。夜の聖会は日本宣教会の小坂嘉嗣先生。聖会は一般公開です。

▽信徒土曜講座の秋学期はこれからでも申込が可能です。
▽創立70周年記念感謝献金(主催:後援会)は、それぞれ感謝の表明としてお加わりください。

消息報告



▽深川教会では、7月29日の臨時総会を経て、隣接地取得に向けて計画が進行中です。すべての手続きに主の祝福がありますようにお祈りください。

▽新浜教会は、9月1日より新拠点に移転しました。移転に伴い、教会名は「新浜教会」から「行徳駅前教会」に変わります。新しい場所での働きが祝されるようにお祈りください。行徳駅前教会の新住所は以下の通りです。電話番号は新浜教会の番号を引継ぎ、変更はありません。

〒272-0133
千葉県市川市行徳駅前
2・1・19・A棟 2F
教報PDFパスワード=8184

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)
郵便振替 0011007133609